参考

2023/07/31 開催　いけんひろば～あなたが思う「居場所」は？～
いけんのまとめ

A 班（小学１生～小学６年生／６人）

○「居場所」だと感じる場所（安心する場所・安心するとき）

- 落ち着く場所は家。リビングなどの家族が一緒にいるところ。あとは自分の部屋など一人で過ごせるところ。落ち着いたり安心したりするのは、家族（特にお母さん）や気が合う友達と遊んでいるとき、好きなゲームをしているとき。あとは「推し」がいるところ（グッズとかが置いてあるところ）も落ち着くと感じる。
- 安心する場所は家族がいるところや、友達がいるところ。家族や友達がいれば場所はどこでも大丈夫。あとは学校が好き。
- 安心するのは、家族と一緒にいるとき、お母さんや弟と話すとき、家にいるとき、寝ているとき。
- 安心する場所は、図書館と公園。図書館は静かで本が読めるところが好き。友達と遊んだりしている時や、学校で友達と話している時も好き。友達がいる場所に行けるといい。一人で校区内を散歩するのも好き。
- 友達や小学生（同じくらいの年の子）と話してるときが楽しい。このいけんひろばも色々な人と話したり、意見を交わしたりできるから楽しい。
- オンラインのフリースクールで勉強しているが、そこで「推し」がいる。顔を名前も知らない人と話すことが楽しい。ゲーム・イラスト・ボカロ・アニメなど色々なことをやって、毎日８時間くらい絵を描いていて、それが楽しい。「推し」の話をしたり、聞いたりしている時間が一番楽しい。

○こどもだけで話せる場所

- こどもだけで話せる場所が欲しい。こどもだけでいれる場所が少ないと思う。
- 親が入れない場所が欲しい。
- こどもだけで遊べる場所があることは知っているが、家から遠く、校区外であるため遊びに行きづらい。近かったら行ってみたいと思う。校区内に一つはこどもだけで遊べる場所があって欲しい。学校のルールで「校区外に一人で行ってはいけない」というものがあるため、校区外だとこどもだけで行きづらい。
- 図書館が校区内にないため、こどもだけで図書館に遊びに行くことができない。
- こどもだけで行ける場所に過去に行っていたが、苦手な子がいるため行けなくなった。
- どの学年の人も入れる場所だと、低学年の子たちがうるさいため宿題や勉強に集中できない。同学年の子で集まれる場所があったら嬉しい。
- 防音室みたいな空間があると、集中できるスペースが確保できるのではないか。
- 静かに本を読んだり、勉強したりできる場所が欲しい。家でも、宿題をしている時に親がテレビを見ていたりすると、うるさいと感じる時がある。
- 静かに過ごす場所とワイワイ過ごす場所を選べるといい。自分たちが行けるところ（校区内）にある

といい。

- 自分の住んでいるマンションに共有スペースがあり、こどもが遊んでいいスペース、勉強やパソコンなどをしていいスペースがある。結構使える。
- 音楽を作る機材など、専門的な機材を使える場所があると嬉しい。
- 親と一緒だと「早く帰るよ」と言われて嫌な気持ちになるから、一人で行けて、一人で過ごせる場所が欲しい。
- こどもだけでも知らない子がいると、ちょっと不安になる。部屋にスタッフがいて見守ってくれるといい。こどもだけでは解決できないトラブルがあるときに助けて欲しい。施設にいるスタッフとして大人がいることは問題ない。
- こどもたちが過ごせる場所であっても、優しい人、良く意見を聞いてくれる人、ダメなことはダメと言ってくれる人であれば大人がいてもいい。
- こどもたちが過ごす場所にいる大人は落ち着いた人がいい。感情的に暴れる人は嫌だ。勉強や読書に集中しているときに迷惑をかけないで欲しい。また、専門的な知識を教えてくれたり、アドバイスをしてくれたりする人がいてくれると嬉しい。
- 一人でどこかに行ったことはない。公園とかどこでも親と一緒でも嬉しい。

〇話しやすい場所・人

- お母さんと友達に対して態度や話す内容が違うから、それを親に知られたくない。家にいる時の自分と友達といる時の自分は少し違う。
- 家族と一緒に行きたいところもあるけれど、友達と一緒に遊ぶ公園にはお母さんに来て欲しくない。お母さんがいると友達と自由に話がしにくい。
- 公園で友達と会ったときにお母さんがいたら学校と同じようには話せない。学校だと好きなように話せる。
- 親と話す内容と友達と話す内容は全然違う。お母さんにゲームやテレビの話をしても聞いてくれないことがある。ゲームの話をしても「分からないから止めて」と言われる。
- 趣味が合う人に対しては色々なことを話せるし、話していて楽しい。
- 知らない人と話す時には秘密が言いやすい。インターネットで繋がって知らない人と話すのも楽しい。
- 今日のいけんひろばは、学校の友達がいないところだから何でも話しやすい。秘密も話すことができる。学校だとすぐに噂話が広まる。
- 顔を知っている人のほうが話しやすいこともある。
- 学校に「秘密のことが話せる部屋」があると嬉しい。
- 学校の先生・カウンセリングの先生には秘密が言いやすい。

- 先生の中にも合う先生、合わない先生がいる。
- 「推し」を見たり、友達と語ったりするためのプライベートな空間が欲しい。「推し」の話をしていると、親に「それの何がいいの」と言われて腹が立つことがある。否定して欲しくない。

〇自分の意見を「聞いてもらえた」と感じるとき

- 好きなことが一緒な人と、好きなことについて話すことが楽しい。共感を得られるのが楽しい。共感してもらえた時に「同じなんだ」と思えるし、「聞いてもらえたな」と感じる。
- 友達に愚痴を聞いてくれる人がいて、共感してくれた時に「聞いてもらえたな」と感じた。「たしかに～なところはあるよね、でも～なところはいいよね」と言ってくれた。
- 友達と喧嘩した時にお母さんに話したら聞いてくれた。「分かった」と言ってくれて、「言ってよかった」と思った。
- 友達に相談ごとをして、「そうなんだ」と受け止めてくれたとき。
- もやもやしたことがあったら、家族か先生に話す。お母さんに喋ってもあまり聞いてくれないときがある。先生はよく聞いてくれる。
- 何でも肯定してくれる AI がある。承認されたいという気持ちがある一方で人には話せないことも AI に対しては話せる。
- AI だとプログラムで自動的に回答されている感じがして嫌だ。

〇周りの子との関係・接し方

- 小学校にあがるときに引っ越したが、周りの子たちは保育園・幼稚園から友達同士のことが多く、友達を作りにくかった。最近は自分から積極的に話しかけるようにしたときに、同じ話題で話せる人がいると分かったときは嬉しかった。相手から話しかけてもらえると特に嬉しい。話しかけてもらえるイベントなど、話すきっかけになるイベントがあったら嬉しい。
- 自分から話しかけるのは緊張するから、話しかけられるほうが嬉しい。
- 話しかけるときは、「相手が好きじゃない話題かも」などと考えてしまう。相手がどう思うのか不安。そんなに話しかけられたくない人もいるのかもしれない。
- いじめが無い場所がいい。どこでも影でいじめが起きていたりする。いくらルールを作っても裏で何か悪いことや、いじめが起きることがある。ルールを守れない人が一人いると「あの人がルールを破っているのなら自分も」という風になって、悪い循環が起きてしまう。
- いじめとかが起こらない人たちで一緒に過ごせたらと思う。いじめられた経験があっても、それを大人に言うと、それによって何か悪いことが起きるかもしれないと感じてしまって言いづらい。
- 学校ではいじめに関するアンケートがある。しかし、そのアンケートに「いじめられている」と答えたことで、

いじめがエスカレートすることがある。「友達がいじめられていると聞いたこと・見たことがあるか」という質問に正直に「ある」と答えても状況が悪化するだけ。正直に書きにくい。先生に伝えるのはためらう。

- 担任の先生が良い人じゃないとだめ。担任の先生がいじめに加担したり、いじめが起きているのを無視したりすることがある。
- 週３日くらい、学校にスクールカウンセラーが来る。相談したことでエスカレートしたことがある。「こうしたらいいんじゃない」というアドバイスはもらえるが、トラブルの相手に対して直接対応はしてくれなかった。
- 人によって態度を変える子が多い。ある人には優しいが、ある人には意地悪な子がいる。そういう人にはあまり関わりたくないが、その人に対して「嫌い」という態度で接してしまうと悪い噂を流される心配があるため、必要最小限の接し方にしている。慣れている友達といるのが一番いい。
- 相手によって態度の差が激しい人がいる。自分のことだけいじめてくる人がいる。
- 悪いことをする人と仲良くなれば自分が標的になることはないが、そういう人と仲良くなりたいとは思わない。
- 友達に裏切られると嫌だ。

B 班（中学３年生～高校２年生／４人）

〇「居場所」だと感じる場所

- ららぽーとや放課後等デイサービス、自分の部屋、SNS 上になるが LINE やアプリ小説は「居場所」と感じる。
- 学校や家、課外活動などの外部でのグループが自分にとって「居場所」だと思う。
- 友達がいる教室を「居場所」だと感じる。
- 家や中学生の時に行っていたグローバルスクールを「居場所」だと感じる。グローバルスクールは楽しく「居場所」だと感じているが、卒業の時期はあるのでずっと同じ場所にはいられない。

〇なぜ「居場所」だと感じるのか

- ららぽーとは行っているうちに「居場所」と感じるようになった。一人で行くマックなど、ららぽーとのファーストフード店が落ち着く。放課後等デイサービスは本音を出せるから「居場所」と感じる。自分の部屋は好きなことができ、アプリ小説やラインでは話を聞いてくれる友達がいるから。
- 学校は部活の友達やクラスメイト、先輩・後輩・先生と話すのが好きだから。家は、家族との空間だから本音を出せるところだと思っている。学校だと今後の上下関係を気にしないといけないが、課外活動は、学校でも家でもない外部の大人、他校の中高生と話したりするので、上下関係などあまり気にしないで自分の意見を言いやすい空間だと思う。
- 課外活動は３つの学校と企業、ファシリテーターが１年間一つのテーマについて話し合う。課外活動や SDGs の活動をしていると、自分と同じような意識高い系が集まるため、年齢に関係なく言いたいことが言える。また一つのテーマについて長期間一緒に考えるため、月に１回ミーティングがありプロジェクトが終わっても遊びに行くほど仲良くなれた。他校の生徒にとっても「居場所」だったと思う。
- 長く一緒にいる人や自分のことをわかってくれている人が、自分に話しかけてくれたり、話を聞いてくれたりする場所は「居場所」だと感じる。
- 家は自由に何でもできるから。通っていた日本の中学校では、自分だけが外国人で他は全員日本人だったので、話をすることや勉強が難しかった。グローバルスクールは、自分と似た人がいて良いと思った。
- 家や SNS はずっと居られるし、お店も営業時間の間はずっと居られる。また、自分が通っている放課後等デイサービスは大人になっても行けると思う。
- 自分の家や祖母の家は自分のことを気にかけて心配してくれるので、自分のことを大切にしてくれると思い、居やすい。

〇「居場所」に求める条件

- 課外活動などのプロジェクトだと期限がある。抜けるタイミングを自分で選べず、代替わりという理由で抜ける場合もあるので、こどもが主体的にいるかどうか決められる空間であってほしいと思う。
- 一人で落ち着けるところや親密な人（友達や恋人、家族など）と２人きりになる場所がほしい。

〇用意された「居場所」について感じていることと、新たに「居場所」をつくる際に重要だと思うこと

- 用意された「居場所」にいる人もいれば、「居場所」を作りたい人もいる。「居場所」を作りたくても作り方がわからず、今ある「居場所」にいる人がいる。また同じ関心事がある人と集まりたいという人がいる。用意された場所に自分が行く方が参加しやすいと思う。
- 用意された場所として、夏休み中は公民館で勉強ができたり、こども食堂があったりすると思う。しかし何をしているのか具体的にわからず、最初の一歩が踏み出せない。学区外だと親の連れ添いが必要になり行きづらい。そもそも自分の学区内にあるのかも知らない。
- こども食堂で友達がボランティアをしていて、遊びに行く人がいた。課外活動でも自分では参加できないけれど、友達がいると参加できる人もいる印象である。新しいことに挑戦出来る人をみて参加する人いると思う。国が「居場所」をつくる際は、「居場所」があることを周知して実際の参加レポートを公表するなど広報が重要だと思った。

〇若者の「居場所」

- みんなが行ける場所なら公園がある。放課後等デイサービスの派生で、誰でも受け入れてくれる場所が考えられる。
- 地区で開催されるお楽しみ会があり、地区に住むこどもがゲームなどを楽しめる機会になっている。地区のお楽しみ会のような機会がもう少し増えると良いと思う。
- 誰でも行ける場所として、体育館やコンピュータ室、図書館があるパレットと呼ばれる場所がある。
- 「居場所」と聞くと、「居場所」がない人をまず思う。最近の中高生は「居場所」がないと感じる人が多いのではと思う。人と関わる場所が学校以外にあるかどうかが関係すると思う。「居場所」が一つしかないと自分がどうしてよいかわからなくなる。家族に本音が話せない人もいるので、学校と家以外の第３の場所がなくなり、気持ちが落ちてしまう子が多いと思う。
- 私がイメージする「居場所」は心のよりどころをイメージしているが、空間としていやすい場所としては武蔵野プレイスに青少年広場がある。畳の部屋があり、こどもにフランクに接してくれる大人がいて、他にもボードゲームで遊べたり勉強できたりする。最近は屋外以外では私語禁止が多いので、もう少しこどものための自由にできる場所があっても良いと思う。

- グローバルスクールに一緒にいた友達は同じ高校なので、卒業しても話はできる。趣味のゲームに関しては、興味がある人は周りにいないので自分一人の世界である。
- 好きなことを教えてくれたり、好きなことを聞いてくれたりする人は話しやすい。例えば音楽が好きな人たちなど、同じ好きなことがある人は信頼関係を築きやすい。自分の好きなことを否定されないと話しやすい。
- 中２までは学校が「居場所」だった。苦手な人が同じクラスにいると「居場所」だと感じなかった。別で「居場所」はあるが、焦らずに学校をまた「居場所」に出来るよう頑張りたい。

〇大人の役割

- 課外活動だと、共通の趣味があることや干渉しすぎず手助けしてくれる大人がいることで「居場所」になった。先生より上下関係がない大人は良いと思う。学校だと上下関係が大変なので、先生や先輩など目上の人とは関わらず後輩とも話さない習慣だったが、課外活動では上下関係なく話せる環境を作ってくれたので、話しやすい環境になったと思う。
- 大人はいるけど、主に見守りとして何かあった時に助けるくらいの干渉しすぎない距離感が良い。
- 自分の話を聞いてくれる大人が良い。ゲームだったら、アイデアを考えることに時間がかかるのでアドバイスしてくれる大人が良い。
- ため口で話せるような友達みたいな大人が良い。ライン交換しても良いような、程よい距離感の大人が欲しい。
- 怒ってくる大人は好ましくない。
- 親みたいな先生は好ましくない。干渉してきたり、綺麗ごとばかり行ったりする大人は好ましくない。例えば、生きるのが辛いと訴えた時に寄り添ってくれる大人がいい。
- アドバイスを軽い気持ちで言ってくれる大人が良い。
- 方向性を決めつけない大人が良い。大人の経験論が大事な時もあるが、こどもの未来の方向性はこどもの主体性に任せてほしい。こどもがやりたいことを尊重してくれる大人が良い。

C 班（小学６年生～高校１年生／４人）

〇「居場所」だと感じる家と学校と、それらが「居場所」と思えなくなる理由

- 家は比較的長い時間を過ごすから、友達より長く一緒にいて、生まれたときから一緒にいるから「学校どうだった？」とか家族と話しやすい。
- 学校だと先生とか友達に気を使わないといけないから、家よりは気持ちがリラックスしていない。友達といて楽しいときは楽しいけど、気持ちが下がっているときに一緒にいたり、苦手な先生がいるとあまりリラックスできない。家だと家族がいるし、自分が好きなものがあると思うから家がいい。小学校の頃より気持ちも身体も大人になって変わっているし、いま気持ちが落ち着いていなかったり、友達の好き嫌いがでてきているから、たまに気を遣うときがある。私が気を遣うというより、友達同士の間でいろいろあって、周りが気を遣う空気感がある感じ。クラスが１クラスになってしまって、人数が多い。今までは２クラスあったから、行き場が２カ所あったけど、１クラスになってぎゅっとなってしまった。友達と一緒にいるのもいいけど、たまに一人で読書したいとか落ち着きたいときもある。図書室は教室から遠くて行くのがちょっと面倒くさい。そういうときは隣の学習室に行って読書をしたりワークを解いたりして、たまには一人になって自分の気持ちを考えたりして落ち着いたり、自分でコントロールできるようになる場所があればいいなと思う。ほかの友達を見ていても、「一緒にいないとだめ」みたいな、クラスで一人でいると変な目で見る子がいるみたいで、そう見られるのが嫌な子は、気を遣って一緒にいる友達を作らなければいけない気持ちになるという話を聞いた。一人になれる時間があるのが家だから、家にはいやすいという人は多いだろうと思う。
- 私は家も学校も楽しいし、授業を聞いていてもいやすいし楽しい。部活が楽しくて、習い事もしている。部活では他のクラスの子と関われて友達になれるから学校も好き。家は割と自分のことを理解してくれている存在が近くにいて話すことができて、結構自由だから家もいいかなと思う。生まれてから今までずっと一緒にいて、自分の性格を知ってくれているからこそ、こういう場合に私がどう思うかなとか、私の親は理解してくれている。でも受験勉強のことを言われるとちょっと下がってしまう。学校とか部活だと何かうまくいかなかったり、友人関係で何かあったりするけど、勉強は私がすれば済む話だし、部活は時間が解決してくれるから、自分はあまり動かない。
- 家は理解してくれる親がいるから、一人になると寂しいと思う。親が仕事でイライラしていると、家にいると私にイライラが刺さってくるから、そういうときはいづらくなる。学校は、今年だけは先生に恵まれたと思うから楽しいかなと思う。５年生の時の先生はイライラすると、宿題を忘れた子を立たせて、自分の怒りのままに説教する人だった。それって言葉の暴力だからやっちゃだめだと思う。３、４年生の時の先生はいい加減な人で、えこひいきをした。クラスで「先生は誰々をえこひいきしている」とか陰口を書いたメモが回ってきたり、机に「〇〇ちゃん嫌い」と書いてあって問題になったことがあった。２年生の時の先生は悪いことをした子を「校長室に連れて行くぞ！」と逆さ吊りにしていたり、けっこうやばい先

生だった。転任してきた１日目に道徳の先生がそれをやったからみんな引いていて、その先生が翌年担任したクラスの子たちが校長室に言いに行くということもあった。（大変だったときは）親にも話していた。先生も若かったし、５年生の担任が初めてで、忙しくて気が回らなかったからだと思う。自分でも冷静になると気づくらしくて、すぐ終わることもある。初めてのストレスとか不安があったんだろうと思う。先生たちも忙しくて心を休めることができなくてかわいそうだと思う。ママがそういうことを言っていた。お母さんとそういう話はする。

〇一人になれる場所・時間

- 一人になれる場所があったらよかった。コロナがあって、行けるところが限定されていたから好きな場所に行けなくて、一人になれる場所がなかなか無かった。一人になれるとしたらトイレしかなかったけど、女子トイレは鏡を見たりして女子がたまるから結構大変だった。
- 友達に気を遣ったり、先生がやばい人だったりするときに気持ちを落ち着けられる。先生が大変なのもわかるけど、それを生徒に向けることはおかしいと思う。その先生がおかしいと思っても生徒はがまんしないといけない。反発するとまた怒られるから。先生や友達との関係を良好に維持するために、自分の考えをまとめたり、いったん落ち着くための一人の場所があるといいなと思う。
- 一人になれると自分のやりたいことに集中できる。自分のクラスは半々くらいの割合でうるさい人と静かな人に分かれていて、休憩時間は静かな人は本を読んでいて、残りのうるさい人たちが走り回っている。静かにやりたい人は一人になれるほうが集中できるが、そうしたくてもできないから困っている。そういうときに一人になりたいなと思う。
- 私はあまり一人でいるのが好きじゃない。一人になるのは学校ではなくて、学校の帰りに本屋に立ち寄ったり、図書館に行ったり、カフェに行ったり、そういうことで一人の時間を作れるから、私は学校では一人でいる時間はあまり必要ないかなと思う。

〇家・学校以外の場所が「居場所」になる理由・ならない理由

- ボランティア先は私の年代の人はあまりいなくて、大学生が多い。考えがすごく大人で、余裕がある感じ。高校生だと自分の話を聞いてほしいというのが多いけど、大学生だと私の話を聞いてくれたりするのがいい。（同じ高校生の部活の先輩とは）ちょっと違う。昨日は麻雀の話をした。就活や大学受験の話を私が尋ねたりする。大学受験の話は参考になる。恋バナをしたりもする。
- 書店は比較的静かなところ。漫画を読むのも好き。親が経営している書店は高齢者もたくさん来るから静かな場所でいい。学校だとみんなでしゃべっているときが多いけど、静かに一人でいられる場所は書店やカフェ、図書館かなと思う。
- カフェと書店が合体しているような場所があり、そこに友達と行って、動いて遊ぶというより、飲み物を

飲みながら話したりすることが多い。本がぎっしり売られているところではなくて、こども向けの絵本や椅子が置いてある。公共の場所だからうるさくもないし、そこで座ってぼーっとできるから、いても苦痛ではない。本が好きだから選んでいる時間も楽しい。

- 公民館はあまり人がいるのを見たことがない。いたとしてもおじいちゃんおばあちゃんが中心で集まっていることが多くて、こどもや 30～40 代の人がいない。おじいちゃんおばあちゃんのための場所で、行こうと思ったこともない。同世代が多いところなら、友達を誘ったら来てくれると思うけど、おじいちゃんおばあちゃんが多いところに誘っても来ないと思う。
- 人がいっぱいいて雑音が大きいところをあまり居心地よく感じないから行かない。一度友達と近所の児童館みたいな遊ぶところに行って、トランポリンとかしていたけど、あまり感情が動かなかった感じ。児童館は小学生が行くところみたいな感じがするし、公民館はおじいちゃんおばあちゃんが行くところで大学生がボランティアをしていたりするかもしれないけど、中学生とか高校生が行く場所ではないと思うから行かない。
- 中高生が行くとしたらカラオケ。

〇家・学校以外に小学校高学年・中高生の「居場所」になる場所が少ない

- 住んでいるところが田舎だから、あまり行くところがない。ブックカフェによく行くが、そういう場所は 1 か所くらいしかない。行き過ぎて飽きるし、そこしか行くところがなくてみんな来るから顔を合わせることにもなる。新しいところができたら友達と「一緒に行こう」と話の輪も広がる。そういう場所がいっぱいあるといいなと思う。
- SNS か親以外ないから、何かないかなあと思う。公民館というものがどこにあるのかよくわからない。児童館も小学校低学年なら学童クラブがあるから行きやすいかもしれないし、高学年でも賑やかなグループの人たちなら固まっていく感じだけど、自分はあまり行かない。知っている人がいないと行きづらいというのもある。つながりが薄い地域で、何もつながりがないから公民館とか児童館は行きづらいなと思う。クラスの賑やかなグループの子たちはゲームセンターに行っているけど、私は興味がない。
- 図書館は一人でも行ける場所だけど、遠くて面倒。学校にもあるけど小さい。とても親しい人がいなくても、親しみやすい人がいるならいいと思う。おじいちゃんおばあちゃんが多くても、かわいがってくれるおばあさんみたいな優しい人がいたら、公民館にも行きやすくなるかもしれないけど、地域のつながりが薄いからそういう人がいない。地域のお祭りでも決まりが厳しいし、出会うきっかけもない。

〇SNS はよくないこともある

- みんなやっているのは Instagram で、SNS って自己満足だから、ストーリーで「今ここにいる」と充実した自分というのを投稿している。私は割とそれを見ているのが好きだし、自分でも投稿する。それを

見てみんなが「いいね」をくれたりすると、自己肯定感がちょっと上がるかなと思う。でも SNS は匿名だから、言えないことも言えてしまう。親が店を経営していて、お店の Instagram アカウントを立ち上げたら、たくさん DM が来て、それで最終的に止めてしまった。匿名だからこそ言えることが DM で来てしまうのが欠点。

- SNS はどちらかというと私は見るほう。ネットだから顔が見えないし、よくわからない相手からメッセージが来ると怖いなという気持ちもある。有名人や友達だったら見ていて「すごいな」と思えるけど、知らない人からメッセージがきたりすると怖い。楽しいところもあるけど反面は悪いところがある。そこはちゃんとわかって使わないといけないと思う。
- 自分は、SNS は「見る」9 割対「やる」1 割くらい。見るのは楽しいけど自分は心配性だから、「これを送って大丈夫かな？」と思うときがあるからあまり使わない。妹のクラスのグループ LINE で問題がたくさん出てきたことがあったり、直接悪口を言われるより、LINE で悪口を言われたほうが何倍も傷つくという話を学校で聞いたりして、それならあまり SNS は使わないほうがいいのかなと思って、自分もあまり最近やらなくなってきた。

〇行きたいと思える場所

- 自分と好みが合う人とか、今回のように初対面でも心を開いて話せるところがあったらいいなと思う。今回こうやって話せたのは、自分の住んでいるところではない人たち、自分を知らない人たちと話せたからだと思う。自分を知っている人だと逆に話しづらいこともある。同年代の人だけでなく、幅広い年代の人と話せる機会があるといいかなと思った。
- こどもだけで行ける場所としてこども食堂がある。こども食堂があるとごはんを食べて一緒に宿題もでき、宿題の答えを学校に忘れてきたときに LINE がなくても貸し借りできる。こどもだけで学区から出てはいけないこともあって行ける場所も限られるから、こどもだけで行けるこども食堂があればいいと思う。自分が行きたいと思えなければ行かないと思うので、行きたいと思えるきっかけや、趣味や自分の性格に合ったところがあればいいなと思う。
- 同年代の人、特に同い年の人と話す機会がある場所がいい。ボランティア先だと年上の人と話す機会があってそれはそれで楽しいが、同年代だからこそ話せることがあるし、流行っていることも年代によって違う。学校だと自分のキャラが確立しているから、別の自分を出せる機会があるとよい。

D 班（高校２年生～大学２年生／５人）

〇「居場所」とは

- 意図的に形成するものではなく自然に形成されていくもの。
- 友人と会話しているときは基本「居場所」と感じる一方、自分の知らない情報で話が盛り上がっているときは自分の存在意義を見出せず「居場所」ではないと感じるため、恒常的に存在するわけではないもの。
- 自分の存在意義を自分の中か他人の中に見いだせる場所だと思う。自分の中というのは、やっていて楽しかったり、勉強になったりするなどであり、他人の中というのは、自分がいることで他人が楽しんでくれたり、他人の仕事に自分が必要と感じることができたりすること。
- 「居場所」という言葉が抽象的であり拍子抜けとしか表現できない。
- 場面によって変わる。例えば自分が好きな図書館であっても、苦手な友人に話しかけられて静かに本を読む環境を妨害されるとそこは少なくとも心地の良い「居場所」ではなくなる。
- 人によって異なる。一般的に家や学校は「居場所」とされているが、虐待やいじめを受けている人たちにとっては「居場所」ではなくなる。
- 好きなものと嫌いなものを天秤にかけたとき、より気持ちが強い方が最終的に「居場所」となるかどうかに影響する。例えば、習い事の水泳では、水泳自体が嫌だと思う気持ちよりも友達と一緒にすることが楽しいという思いの方が強ければ、結果として「居場所」となる。
- 「居場所」は自分で作っていくもの。全体としての「居場所」は団体力を適度な強さで保ち、全体としての「居場所」の中に複数の個人間の結びつきを強めた小さな「居場所」が形成されていくイメージ。
- 周りの人間と適度に距離を置けることも必要だと思う。
- ほかの人と自分がやりたいことを共有できる場所。自分はバスケが好きで一人でやっていても楽しいが、やっぱり他の人と一緒にやる方が楽しい。
- 自分が他人にどう思われているかと考えているときはまだ「居場所」になっていないと思う。自分の発言がどう思われるか心配することなく打ち解けられている状態に自分で作り上げていくことが必要なので、既存の「居場所」を自分にとっての「居場所」とするかどうかは自分の選択によるものだと思う。
- 自分で「ここが「居場所」だ」と感じているうちは、「居場所」であることを感じたいから行っている状態であり、まだ本当の意味で「居場所」ではないのかもしれない。本当に居心地の良い「居場所」は、自分にとって「ここが「居場所」だ」と自覚していないと思う。
- ある程度、自由にできる状況が必要だと思う。家の場合、誰にも見られない空間があるし、学校の場合でも、極端に言うと授業中に何をしていても少し怒られるくらいで済むので自由である。
- とある自治体の教育委員会で紙芝居を作って何校かの生徒に見てもらった時に、誰とどこでどんなリアクションをしてもよいとルールを設けた。紙芝居を見ていること自体が「居場所」となっており、その

「居場所」において自由であることが大事だと思った。

- 他からの力が強いと「居場所」でなくなることもある。例えば勉強が好きで自習室にいたとしても、周りが東大を目指すような人たちばかりだと「居場所」ではなくなると思う。「居場所」として挙げられる場所も必ずしもみんなにとって「居場所」であるとは限らない。
- 「居場所」に理由を求めてはいけないのかもしれない。例えば歌舞伎町の「トー横」は周りの人からしたら何をしているか理解できないかもしれないが、本人たちにとっては「居場所」である。深夜に「トー横」にいるこどもたちが補導されているのは、こどもたちの健康上は必要なことかもしれないが、「トー横」を「居場所」としている本人たちの精神面を思うと何とも言えない気持ちになる。
- 周りにとってはネガティブでも本人たちの中では「居場所」となる場合もあると思う。自分にはやんちゃしている友人がおり、他人からは悪く見えるかもしれないが、本人たちにとっては目立ちたいという欲望を実現することで存在意義を見いだせる居心地のいい場所なのかもしれない。
- 今の「居場所」は中高生に限定されているものであるため、今後も続いていくものではないと思う。
- 部活では自分が最高学年なので下の子をみているが、習い事では自分が末っ子で可愛がってくれるので、それぞれで自分の立ち位置が違うのがいいなと思う。
- 友達など居心地がいいと感じている「居場所」でもずっといるとストレスを感じるので、居続けられることが「居場所」の条件ではないと思う。ひとりでいる時間とそれを共有する時間のバランスが大切だと思う。
- 人と過ごす以外の趣味という意味での「居場所」もあるのだと思う。三者面談の時に友達はうまくいかないときもあるから、職業として安定的に供給される「推し」を持っといた方がいいと勧められた。

〇「居場所」との付き合い方

- 「居場所」が一か所しかないとそこが「居場所」と感じなくなった時、行き場を失ってしまうので、逃げ道として居心地の良いと感じる場所は何か所かあった方がよいと思う。
- 話したり集まったりすることのみを目的として「居場所」を見つけると、仲が悪い人とのかかわりを避けられず自分の「居場所」でなくなってしまうので、話したり集まったりすること以外の目的がある方がよい。目的が何個かあれば、一つの目的が実現できていなくても、それ以外の目的が達成できていることで「居場所」としてあり続けられる。例えば、自分は習い事で水泳をやっていたが、水泳がうまくいかなかったときでも友達に会いたいから続けられて、水泳への気持ちも取り戻した経験がある。

〇居心地のいい「居場所」とは

- 今このいけんひろばで話し合っている空間はいい場所と思う。
- 長く続けているダンスは幅広い年齢の子が一緒にいて、学校とはまた異なる感じで「居場所」だと感

じる。

- NPO 団体が運営している中高生の「居場所」は、自分でいつ誰と何をするか自由に決められるので、「居場所」だと感じる。ある時は仲のいい職員とバスケをしたり、ある時は個人的に話すために普段とは別の場所に行って話し合いしたりしている。
- 同年代が苦手で小さいこどもか自分よりも少し年上の 20-25 歳くらいの若い大人がいるところが好き。
- 留まっているわけではないので「居場所」と言えるかわからないが、学校終わりや朝早くに土手を一人で歩くのが誰とどんなことをしている時よりも好きである。

〇「居場所」がなくなったと感じたとき

- 新しい学校に通うことになったとき、これまで築いてきた関係が途切れて「居場所」がなくなったと感じた。また、新しい学校では既存のコミュニティに自分から入っていく必要があり難しいと感じている。

〇「居場所」がなくなるとどうなるか

- 自殺とかを考えてしまうのかもしれない。
- 参加申込時のアンケートで家や学校以外の「居場所」の有無についての質問があったが、自分にとっては学校や部活が楽しいと思える場所なので、学校が「居場所」であることも考えられると思う。
- 「居場所」が必要ないと感じる人にとっても、世間一般で「居場所」と言われる場所を候補として用意しておくことが望ましいかもしれない。

〇一度なくなった「居場所」を取り戻すには

- 自分の思い込みで一時的に「居場所」がなくなったと感じたことはある。部活で相手を傷つけてしまったと思いその夜すごく後悔したことがあるが、次の日会ってみたらいつも通り接してくれた。
- 自分がしてしまった非を、誠意をもって謝ることで解決して「居場所」を取り戻すこともある。

〇「居場所」に大人は必要か

- 危ないことが起きたときに止めてくれる役割を担う大人は必要なものの、「居場所」に対して大人はあまり干渉しない方がよいと思う。
- 最初に「居場所」を作るにあたっての大人のサポートは必要だが、大人が関与しすぎて自分たちの「居場所」というより大人が準備した場所に子供が入っていくような印象とならない方がよいと思う。
- こどもたちが「居場所」を作る過程で、困ったときに助けを求められる大人がいるとよいと思う。個人的にはとても仲のいい大人、そこそこ仲のいい大人、顔が分かる程度の大人の 3 人が周りにいてくれる

と、話したい内容に応じてこどもたちは相談相手を選択できるので、こどもたちの希望が実現する確率が高くなると思う。

- こどもが言いすぎたり他の人が不快に感じることをしてしまう時に大人が止めてくれるとありがたい一方、言い過ぎや不快に感じる基準を大人が作るとこどもを制限しているとも捉えられるのであまり良くないと思う。
- 個人的にはいい意味でダメな人間が好き。かっちりしているとこどもからしたら関わりづらいと思う。世間的にダメな人は気さくに話を受け入れてくれたり、自分に合わせて一緒に馬鹿なことをしてくれたりするから接しやすい。
- 自分たちに年齢が近い人が「大人」として周りにいてくれると嬉しい。例えば自分たちが中学生であれば高校生の人が周りにいてくれると、世間的には大人ではないかもしれないが、話しやすいし同じ目線に立ってくれそう。

〇「居場所」の見つけ方

- 人づてで「居場所」にたどり着いた。中学生の頃に先生側からいじめられていた時、放課後遊びのボランティアの人に中高生の「居場所」の存在を教えてもらった。
- 愛知に遊びに行くのが好きで、よく歩いているうちに 5 回に 1 回くらいだが直感的にたまたまいい場所に巡り合うことがある。
- 自分で「こういうところに行きたい」という意識をもって、インターネットを活用して「居場所」を探せたらいいと思う。
- もともと別の内容を調べていて、たまたま「あなたへのおすすめ」などでリコメンドされて行く場合もある。
- NPO 法人などは「居場所」を作っていたとしても、金銭的な理由で発信力が弱く自分たちが見つけづらいと思う。自分が住んでいる地域等信頼性が高い組織が HP などで紹介してくれると行きやすい。
- こども家庭庁が電車広告などで「こんな「居場所」があるよ」と周知してくれるとよいと思う。
- 友達がいるコミュニティに自分が新しく入っていくのは苦手で、これまで集団塾やピアノに行き損ねてきたので、知っている人がいないコミュニティの方がいい。
- どんな方法でも「居場所」を見つけられたら成功だと思う。、また、居場所を見つけるのが上手な人と下手な人の違いを考えることで、新たな知見を得られるかもしれない。
- 高校 3 年生の時に大好きな部活を引退したとき、「居場所」がなくなったとずっともやもやしていたまま結局新しい「居場所」を見つけられなかった経験から、誰かから「居場所」についての情報を教えてもらえる機会があればいいと思う。

E 班（大学４年生～社会人／４人）

〇いけんひろばに参加したきっかけ

- 私がこのいけんひろばに参加したのは、news zero で櫻井翔さんが紹介していたのをみたのがきっかけだった。翔くんが言っていたから参加したんだと思う。ニュースっぽく言われるととっつきづらいけど、翔くんが自分の言葉で話してくれたからよかった。

〇「居場所」だと感じる場所

- 中学生の頃から、Twitter の中で過ごす時間がほとんどだった。自分と近い趣味の子と会う場はSNS がほとんど。学校だと、私と同じアニメやゲームが趣味の子は少数派だった。同じ趣味の子とは話が合うため、安心感があり、「居場所」になる。SNS で知り合った子とリアルで会うこともある。
- 友達を「居場所」だと感じる。通っている大学の周りに住んでいる学生が多いので、夜など家に遊びに行き、他愛のない話をしているときに「居場所」だと感じる。ただ、授業中はあまり「居場所」だと感じない。
- 東京に行ったときにたまたま行ったバーの店主と仲良くなり、２～３週間に１度通うようになった。そのバーはいて楽しいところだと感じる。最初は入るのに勇気がいったが、入って３～４時間する中で、気が合うなと思い、次のイベントなども案内してもらい、人と関わっている感じがあるなと思った。バーだと、自分と違う世代の人や社会人の先輩から知らない話を聞ける。
- 自分の好きな「ひと」「もの」「こと」があるのが「居場所」。「ひと」は友達・家族・恋人・同じ会社のひと。「もの」は丸いものとか、飼っているインコ、キャラクターグッズ、本、文具、玩具。「こと」はエンタメの場、交流の場、学びの場、話をきいてくれる場。学びの場は学校に限らない。学ぶことがあれば、なんの種類でも学べるところが「居場所」。「ひと」「もの」「こと」が３つ揃っている場所としては、ディズニーランドなどのテーマパークが思い浮かぶ。テーマパークが好きだが、テーマパークはエンタメの場所であり、好きなキャラクターのグッズを購入でき、好きなひとと行くことができる。
- 安心したり、わくわくしたり、もっとこうしたいという気持ちを感じられたりする場所が「居場所」だと思う。施設出身の子たちの「居場所」を訪れたことがあるが、その中にも「居場所」だと感じる場所とそうでない場所があった。「居場所」という名前がついている場所を「居場所」だと感じることもあれば、カフェなど、作業している場所・空間を心地よくて「居場所」だと感じることもある。「快」か「不快」のうち「快」にあたるものを「居場所」だと感じる。
- あまり母と祖母が仲良くなく、険悪なときもあったので、家にいたいときといたくないときがあった。家にいたくないときは、友達に会ったり、彼女やパートナーに会ったりすることでそっちに逃げていた。小学校のときは、近くの公民館で騒いでいるおじさんたちのところに行ってみたり。公民館の職員さんもいたので、ふらっと遊びに行った。

〇「居場所」ではないと感じる場所

- 自分の意見に反対されたとき、話を遮られてしまったときは「この話やめたほうがいいんだ」ってその瞬間ははっとするけど、そのあと反省しちゃうので、「居場所」という感じではない。
- 自分の場合、バイトの子とはあまり関わっていないので、「居場所」だと感じない。
- 「居場所」といわれる場所にいったとき、よくきている子たちがわーっと話していると、疎外感や寂しさを感じる。みんなでわちゃわちゃするのは好きだけど、そうじゃないことを求められているんだろうなと思うと、自分のことをどこまで開示していいのかわからなくなる。人の目を気にし始めちゃうと「居場所」じゃない。
- 中学校が荒れていて、いやになって、同じ中学校の子が行かなそうな高校を選んだ。いざ入学したら、入学式時点でグループができあがってしまっていた。けっきょく誰とも仲良くできなくて、担任の先生も干渉してこないし、保健室の先生も味方になってくれなくて教室に入れなくなった。それがきっかけで不登校になった。だれも守ってくれない、というのが不快感になった。そういう場所は「居場所」ではないという認識になる。
- コロナになって大学のひとと Zoom でしか会えないとなったとき、1 年目は楽だったが徐々に「これって人と関わっているのかな？」と思うようになり、居づらくなった。

〇なぜ「居場所」だと感じるのか

- バーでは、意見が対立したとしても、それはそれとしておきつつ、意見を言い合える関係がある。意見が対立しても、最終的にはまたここに来たいと思える場所。
- 色んなところに行きたいときと行きたくないときの悩みはある。バーに行ったのも、どこかに行きたい気分のときだった。場所によって、1 回きりのときのところと何度も行くところがある。理由には地理的な遠近もある。あとは、プライベートな話が本音で話せると思えたのが、バーに何度も通いたくなった理由として大きいのかなと思う。同じ空間を共有して、お酒を飲んでいるのも大きいと思う。ジャズバーだったので、そのあとイベントがあってさらに関係が深くなった。
- SNS のアカウントをいくつかわけている。話したい内容によって、使うアカウントが変わる。SNS は見ないという選択肢もふくめて、場所の選択肢がいろいろあるのは SNS の強みだと思う。
- 好きな「ひと」「もの」「こと」がそろっていたら、最高の場所で「快」になる。リアルでもバーチャルでもいいので、自分が情報にアクセスできるということが大事だと思った。

〇「居場所」と、「居場所」ではない場所のちがい

- 「自分」として見られているか、「大勢の中のひとり」として見られているか、によって「居場所」かどうかが変わる。前者のほうが「居場所」だと感じる。バイトだと、仕事をしていて自分のプライベートな話はし

ないので、「居場所」かといわれると微妙。

- 居心地がいいな、と感じる場所は日によってちがう。ひとといるのが心地よいときと、一人でいたいときがある。例えば SNS をみていて、自分のことを言っているわけではないだろうけど「自分のことかな…」と思うと SNS を見るのをやめる。絶対的なものはなくって、場面によって、同じひとといても、感じることはその日やその時々でちがう。「これが私の「居場所」です！」と言えるものはないけど、その時々で変わっていいと思う。自分で選べて、その場所に行けると思える場所がもっと増えたらいいなと思う。選択肢が多いほうが、ぱっと思い浮かびやすい。自分以外の、世界にあるものは「心地よい」ものとしての選択肢になると思う。

〇「居場所」ができる過程

- SNS でいまでも仲良しで旅行したりお家に泊まりにいったりする子がいる。最初に会ったときはお互い緊張して、淡々と話しているだけだったけど、何回か会ううちに、SNS でも書いていないパーソナルなことを話して「SNS のフォロワー」から「友達」に切り替わった。同じものが好きだと分かっているから怖くない。
- いろいろな生い立ちがあって今は親と離れて暮らしているが、社会的養護の子たちと施設の中で出会い、その中で仲良くなり、そういう子たちとご飯いったり、遊んだり、自分のことを話すようになると、自分はひとりじゃないんだと思い、その空間が「居場所」になる。

〇こどもから若者までの「居場所」をつくる上で、大切にしてほしいと思うこと

- 今サポステに行っているが、そういう場所があることを知らなかった。地元のテレビの特集の中で「「居場所」がなくなっちゃったような若者が騒いでおり迷惑だ」というニュースの一環としてサポステが紹介されており初めて知った。障害や就労のことは友達にも話せないので、誰に相談すべきか悩む。私はたまたまサポステをニュースで見たけれど、情報を手に入れられていないひともいると思うので、もっと告知してほしい。定時高校や、不登校の学生向けに情報を伝えることや、学校のホームルームや家庭科の授業、大学の中などで紹介することを検討してほしい。SNS で広告を流してもよい。手軽に手の届く範囲に広告があると、みんな利用すると思う。正直、サポステにあまりひとがいる気配がないので、予約制だからという面はあるが、集客できていない気がする。
- 自分の市のサポステは LINE でも相談ができる。電話が苦手なので助かっている。事前に LINE で悩み事を送ると、相性のよい相談員さんとマッチングしてくれる。事前にマッチングしてくれることもすごく助かった。
- 新しく「居場所」をつくるのも大事だけれど、今ある「居場所」にもっと予算を出してほしいなと思う。「居場所」という名前がつくかは別として、社会やこども若者のために安心できる場所をつくりたいとお

もっている団体は、経営が赤字なところが多いと感じている。なので、団体の活動にもっと予算を割いてほしい。国からお金がでれば、受け入れられる人数も増えるだろうし、その場所を安心だと思ってもらえる可能性も高まると思う。

- 場所を、テレビやメディア、インスタなど、ぱっと手に届く場所で情報を届けてほしい。例えば虐待や芸能人の自死の報道があったときに「ここに相談してください」と案内されるが、それと同じくらいの手軽さで情報をだしてほしい。情報をだしてそこにひとが集まれば、すでにある場所はすぐにパンパンになると思うので、予算をだすことが大事になると思う。
- 大学１年生のとき、知的障害があるひとの就労支援の場に行っていた。そこで課題だったのが、知的障害がある方が高校卒業後に支援の情報をみつけられるかが、たまたま口コミなどで知れるかにかかっているという点。経済的に貧しいひとなどにはなかなか情報が行き届いていない。
- 「居場所」は、人との関わりで、孤独・孤立にも関連が深いと思う。知的障害の方や LGBT の方などが、しんどさを抱えるときに自分で抱えてしまって誰にも相談できないところがある。相談できるような関係を築ける場所がいる。中学生の子からもいじめがしんどいという話を聞いたりしたので、そこを救えるような仕組みが必要だと思う。
- 周りの人に話をきくと、学校と家庭しか「居場所」の選択肢がないというひとがいるので、「居場所」をどう意図的につくれるか、いろんなひとと関われるかが大切だと思う。時には本音を話して、話したくないときには話さなくてもいいような場所をつくることが大切だと思う。
- サポステの担当者が、もともとみどりの窓口で障害者雇用の対応をされていた方だった。障害があると、これはできないあれはできないなど、マイナスの方向で考えてしまうが、その相談員の方は「できなくても大丈夫」「それは迷惑じゃない」と言ってくれる。実際に障害に対応されていた方と話すことで、新たな気づきを得られるのも「居場所」の特徴の一つだと思う。困っているひとには知ってほしいし、怖がらずに行ってみてほしい。
- ０～２歳検診の中で、保健師さんから「ここに相談してはどうですか」と助言があると聞くので、保護者や本人に向けて情報を伝えるタイミングがあるといいなと思う。
- 社会が「問題だ、大変だ」と思うのは何か問題が起こった後だが、本当は小さい孤独や孤立の積み重ねからはじまっている。一歩踏み出すのは勇気がいる。一歩の勇気を踏み出そうというとき、今までになかったものが突然現れると「怖い」「これでいいのかな」という感覚になると思う。テレビやコマーシャルみたいに、普段生活する中で目につく、聞こえる場所にあれば、抵抗感が薄れていくのかなと思う。
- 同じ共通点があるひととだからこそ話せることもあるが、枠がなくても安心できる場所、いるだけで安心する場所が出来たらいいなと思う。
- 私の小さいときの「居場所」は、行政の予算で、地域の民間の劇団によって取り組まれている区民ミュージカルだった。小学生から中学３年生まで参加していた。年齢があがるにつれて、区から市、市

から県へと活動の範囲を広げた。区役所や市役所、県庁・都庁で、オープンスペース・パブリックスペースを解放することが大事だと思う。開いていることはもちろん大切だし、ロゴマークなど、目に見える視覚情報として、だれでも入っていいことがわかりやすく伝えられるといいなと思う。

- 車いすに乗っていたり、杖をついていたりするなど、ぱっと見てわかりやすい障害だけでなく、例えば妊娠初期や、LGBTQ など、目に見えづらい社会的弱者を強者にできると思う。私は小学校のときに大きな病気になって、今でも通院している。ただ、受け入れるのに時間がかかって、障害者手帳を取得するまで時間がかかった。今は、会社でバリバリ働けている。自分の個性を、ユニークなものとしてとらえてほしい。「これがだめなんだよね、だからごめん」ではなく「これがだめなんだよね、だけどこれは出来るよ」と言ってほしい。自分の得意な部分や個性を、就職活動や進学のときに、もっと出してもいいんだよと声を大にして言いたい。
- このいけんひろばの事業にも、PwC という会社が協力して、つながりながら進めているんだよということが目に見えてわかると安心が増え「私の会社／学校からも参加してみようかな」と思うだろう。

いけんひろば後に追加いただいた意見

- 高校生の時に不登校になったのは、「自分」を隠すためにペルソナ(仮面)を使って自分を偽らないといけなかったことが辛かった、不快だったことも理由の一つだったと思う。
  通っていた中学校が荒れていて、授業がまともに受けられなかった教科があること、自主的に勉強した部分が多く基礎が未熟な教科があること、推薦で進学校に入学したことなどもあって、勉強面がプレッシャーとなり、「勉強ができる私」というペルソナを死守しなければいけないと感じていた。また、オタクであることを隠し通さないと友達ができないのではないか、という不安もあり、無理に他の人の話に合わせるなど「オタクである私」も別のペルソナで死んでも隠そうと思っていた。
  加えて、今の自分でいうと、「障害や持病を隠して"健常者"として振る舞う」というのが不快に感じる。障害や持病の影響で、健常者よりも苦手なことやできないことが多いため、サポートを必要とする場面も多いが、障害者手帳などの公的な支援を受けられない場合は、制度上はあくまでも"健常者"となるため、仕事選びや仕事探しがとても大変である。今は、「私が私らしく、私が大好きな私で生きていく」というのが目標で、"快"を求めて、大好きなネイル・ヘアカラー・ヘアアレンジ・お洋服を身に着けながら生きていけるような仕事へのオープン就労を目指している。
  自分が自分でいられない場所、本当の自分を隠さないといけない場所、というのは大変に不快で、辛くて、悲しくて、寂しかったので、"いばしょ"を作る際には、こういった不安を取り除けるような配慮があるとより良い環境になると思う。
- SNS が居場所となったのは、オタクであることを隠す必要がなく、伸び伸びと生活できていることが理由のひとつかもしれない。
- 今回のいけんひろばのように、安心、信頼出来る大人が主催や管理のもと、異なる年齢・地域に住む、お互いの内面を知らない者同士が集まる場所は行きたいと思える。
- SNS は相手の顔を見て連絡しあえる訳では無いので、おもわぬ発言などでトラブルがおきやすいから、怖いものだと思う。でも、SNS には相手が自分を直接知っている人ではないからこそ、家族や友人に言えない本音なども書けるといういい点もあると思う。
- 一人になって苦しかったことが湧き出てきても、人にみられずに泣けたり、(学校にいる時でも)気持ちをリセットできたりする場所がトイレ以外にもあるといいなと思う。
- 居場所をみつける人が上手な人と下手の人の違いってなんだろう。

以上